



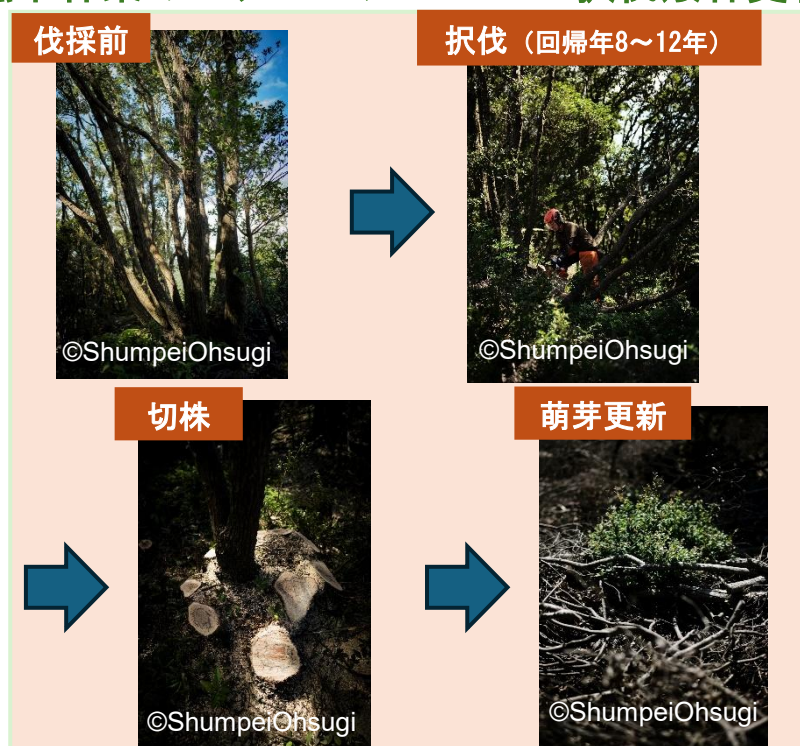
徳島県南地域

徳島県南地域には、常緑広葉樹（照葉樹林）が広がり、古くからこの地域では炭や薪を生産してきました。大正時代に徳島県が択伐による萌芽更新を「樵木林業」と命名して奨励した林業は、生態系の維持や土壌保全にきわめて優れた伝統技法です。石油等の燃料転換により一度は衰退したものの施業技術が評価され、令和7年に日本農業遺産認定を受け、この持続可能な樵木林業システムによる地域振興が再び力強く動き出しています。

日本農業遺産

令和7年1月認定

樵木林業のコア・メカニズム：択伐矮林更新法



先人から受け継ぐ、森と生きる知恵



日本農業遺産認定による効果

先人から受け継ぐ、森とともに生きる知恵

- 台風の常襲地である県南地域では、風倒害等を防ぐため、樵木林業により樹木を低く保っている。
- 樵木林業の択伐矮林更新法により樹木の根が維持されるため、治山・治水効果に優れている。



▲樵木林業

- 択伐による収穫後は、萌芽更新により効率的に次世代の樹木を育成する。



▲樹冠

- ・新規樵木林業従事者の受け入れ支援
0名(R5)→2名(R7)
- ・新規伐採地1か所(R5)→3か所(R7)
- ・ウバメガシ萌芽防護効果調査地0か所(R5)→2カ所(R7)



▲萌芽更新

多様な生き物を育む、恵みの森

- この手法で管理された照葉樹林は、樹冠が立体的に重なる複雑な「複層林」を構成し、多様な生物が生息している。
- 照葉樹林は一年を通して美しい景観を保ち、里山集落と森林の間には、獣害を防ぐための「シシ垣」が一部現在も保全されている。
- 沿岸部の森林は海とのつながりが深く、漁場の環境維持に貢献している。



▲ミドリシジミ



▲シシ垣

- ・人工林から照葉樹林への転換 0か所(R5)→1か所(R7)
- ・常緑広葉樹苗木生産者 1者(R5)→2者(R7)
- ・生物多様性調査実施中 (R7)



▲照葉樹林と海

伝統文化を生みだし、森と生きる豊かな営み

- 山間部の集落では、樵木林業の収入により人形浄瑠璃や吹筒花火などの文化が醸成され、大小様々な神社が建立されてきた。



▲人形浄瑠璃

- 海陽町に伝わる「海部刀(かいふうとう)」は、カン類の炭から生まれる強い火力によって作られてきた。



▲吹筒花火

- ・樵木林業周遊コース設定準備 2か所(R7)
- ・樵木林業遺跡地等・掲示板設置準備 2か所(R7)
- ・樵木林業文化情報収集及び情報発信の準備 (R7)



▲薪

食料生産に活かされ、受け継がれる森の力

- 薪や炭の飲食店需要が増加している。
- 地域で取り組んでいる燃料など、新規需要が増加している。
- 照葉樹資源は、生産量全国一を誇る菌床しいたけの培地にも活用されるなど、安定した需要がある。



▲備長炭



▲海塩

- ・備長炭生産量 4t(R5)→20t(R7)
- ・地炎地食の推進 関連商品 1個(R5)→2個(R7)
- ・備長炭の高付加価値製品支援 0個(R5)→1個(R7)
(食品産業とのコラボ商品開発)



▲しいたけ

※「地炎地食」とは、地域の食(食材)を、地域の炎(薪・炭)で調理して味わうこと。